

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「読むこと」、算数では「測定」、理科では「エネルギーを柱とする領域」分野の平均正答率が低いことが分かる。一方、算数の「図形」分野の平均正答率は高い結果となった。RSTの結果では「照応解決」の能力値平均が低いことが分かった。
○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、問題解決に向けて論理的に考えたり、文章の内容を理解して答えたり、自分の意見や考えを友達に伝えたり共有したりすることが苦手な児童もいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○読み解く力の育成を図り問題解決的な指導方法について教員全体で共通理解すること。
○児童一人ひとりが主体的に学習に取り組む時間や、友達同士で考えを交流する場を設けて伝え合い・共有し合う時間を十分に確保し、深い学びにつなげるよう指導方法を工夫する。
○本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る場の意図的な設定ができていない。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○各学習に「板橋区授業スタンダード」を位置付け、問題解決型・探究型の協働学習を行う。
○個別最適な学び・協働的な学びを推進するために一人1台端末を活用する。
○蓮根小中学びのエリア9年間のゴールを見通した指導を行う。
○1・2年生でMIMを実施し、一人ひとりに応じた読みのつまずきへの個別指導を行う。
○各教科のねらいを達成するための手だてをとるとともに、6つの基礎的読解力を意識した授業を行う。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区スタンダードの徹底	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○各教科において、めあての提示→自力解決→検討→まとめ→振り返りの学習過程(問題解決型・探究型の学習活動)に基づく板橋区授業スタンダードを徹底する。また、各教科の特性や単元・題材のねらい、児童の実態に応じてスタンダードSを取り入れる。	○児童が主体的な対話を通じた学習に取り組むための指導方法として、一人ひとりが自分の考えをもつ場面、他の人の考えを聞いて自分の考えと比較し、よりよい考えを生み出す場面を設けるようにする。	○児童が発達段階に応じて一定量で書くことのできる振り返りを行う時間を必ず設定する。それを受けて、計画、実践、評価、改善を繰り返し行い、児童の主体的・対話的で深い学びをめざした指導を展開する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

読み解く力の育成	「板橋区環境教育推進プラン2025」に基づく環境教育の推進	教員の指導力向上
○「板橋区授業スタンダードS」を基盤とした授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」につながる質の高い授業づくりに努める。 ○「INPUT」「THINK」「OUTPUT」の学びのプロセスを意識した授業づくりを行う。特に「OUTPUT」を意識した授業となるようにする。 ○教科書を使用した教材研究を行い、教職員が指導観を更新する。	○校庭芝生、ピオトープ、蓮、縁のカーテンなど、蓮二小の自然を生かした授業を展開する。 ○芝生やピオトープを持続可能なものにするために、環境教育推進に関わるマニュアルを作成する。 ○ユネスコスクールとして、地域コミュニティと連携しながら、SDGs、ESD(持続可能な社会の実現に向けた教育)に継続的に取り組んでいく。	○校内研究では「子どもの問いから始まる授業づくり」について学び、児童の主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善や指導法を身に付ける。 ○経験年数や教員の得意分野を生かして都や区の研修会へ参加する。校内ではミニ研修会を行い、全教員に周知還元する。 ○若手教職員の課題に応じ、校内OJTを推進し、スキルアップ研修等で教員の指導力の向上を図る。